

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

|               |  |     |             |         |
|---------------|--|-----|-------------|---------|
| 科目名(英)        | 国際経済政策(International Economic Policy)  |     | 授業コード       | E019251 |
| 担当教員名         | 市川 芳郎  |     | 科目ナンバリングコード | E20412  |
| 配当学年          | 2  | 開講期 | 後期          |         |
| 必修・選択区分       | 経営経済学科 選択  | 単位数 | 2           |         |
| 履修上の注意または履修条件 | 現実の経済の動向に対しての関心があるかどうかがこの科目の理解の程度に大きく影響してきます。日々の新聞、ニュースに関心を示し、注意を払って下さい。問題意識の濃淡が理解の程度に大きく影響してきます。<br>出席は毎回とります。毎回プリントを配布します。 |     |             |         |
| 受講心得          | 講義を受ける基本的なルール(私語をつつしむ、他の学生の迷惑となる行為を行わないなど)を遵守して下さい。  |     |             |         |
| 教科書           | 特定の教科書は使用しません。毎回講義用のプリントを配布します。  |     |             |         |
| 参考文献及び指定図書    | 石川城太他著『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣 2013年<br>本書の国際経済政策の部分参考文献とします。  |     |             |         |
| 関連科目          | 特にありません。   |     |             |         |

|       |   |
|-------|---|
| 授業の目的 | 1990年代以降、国境を越えた経済の融合とマネーの動きは加速度を増し、予測を超える事態が次々と発生しています。グローバリゼーションへの不信と反発も急激に高まっています。しかし、われわれはこのグローバル化した経済の中でいやおうなく、これからも働き、生活していかなければなりません。本講では2つの観点からグローバル・エコノミーを検討します。第1に主にグローバリゼーションが実物経済に与える変化と、それが引き起こす従来のシステムとの葛藤を説明します。第2に経済のグローバル化のなかで急激な資本移動が引き起こす通貨金融危機や国際通貨システムの問題点などを検討します。 |
| 授業の概要 | 前半部では経済のグローバル化とは何かを説明します。また、経済のグローバル化が雇用、賃金、所得分配に及ぼす影響について説明します。さらに、グローバリゼーションが政府のありかたにどのような影響をもたらすかを説明します。企業行動、貿易、直接投資との関連も重要です。後半では、資本移動と通貨危機の原因を説明します。グローバル化と経済発展の関係を中国・アジア諸国の開放政策の成果として説明します。   |

| ○授業計画  |             |
|--|-------------|
| 学修内容   | 学修課題(予習・復習) |
| <b>第1週：第1回 国際経済政策の講義を始めるに当たっての案内</b><br>講義の目的、受講心得、参考文献及び指定図書、評価方法についての全般的な説明をおこないます。授業内容についての概略を説明します。  |             |
| <b>第2週：第2回 経済のグローバリゼーションとは何か(1)</b><br>ここではグローバリゼーションと言う言葉の意味を明確にします。そして、グローバル化促進の要因を説明します。その上で、グローバリゼーションをどのように評価したらよいかをみます。  | 配布プリント      |
| <b>第3週：第3回 経済のグローバリゼーションとは何か(2)</b><br>グローバリゼーションの興亡を労働移動と貿易、資本移動の観点から見てみます。さらに、グローバリゼーションの急激な進展に対して強く反発し、抗議する一群の人々がいます。彼らはなぜ反対しているのかを明らかにします。   | 配布プリント      |
| <b>第4週：第4回 グローバリゼーションと雇用・賃金・所得分配</b><br>グローバリゼーションは先進国と開発途上国の間に緊張と相互不信を高めています。先進国の労働者は、途上国の安い製品の流入で仕事が奪われるのではないかと心配しています。一方、途上国の人々は、グローバリゼーションの果実は先進国に奪われていると批判しています。こうした考え方はどの程度、妥当なものなのかを考えてみます。   | 配布プリント      |
| <b>第5週：第5回 グローバリゼーションと政府・経済システム・経済成長</b><br>グローバリゼーションのなかで急激に発展している国家や地域がある反面で停滞し衰退しているものもあります。国家の盛衰は各国の政府の能力と経済システムの選択に関係があります。グローバリゼーションのなかで、国家・政府という制度間の競争が起こり、それが市場における信用度の差となってあらわれる時代になったのです。経済発展と政府の役割、資本・貿易の自由化とグローバル・スタンダードについて説明します。 | 配布プリント      |
| <b>第6週：第6回 グローバリゼーションと企業・貿易・直接投資(I)</b>  | 配布プリント      |

|  |                |                     |
|--|----------------|---------------------|
| <p>企業のグローバル化を国際分業の進展と貿易構造の変化の観点から説明します。日本企業のグローバル化の始まりとして、80年代後半から本格化した日本企業の対外直接投資の増大を説明します。</p>   |                |                     |
| <p><b>第7週：第7回 グローバリゼーションと企業・貿易・直接投資(Ⅱ)</b><br/>         グローバリゼーションが進む一方で、北米、東アジアにおける経済活動の地域化(リージョナリゼーション)が進んでいます。その実態をみてみます。また、リージョナリゼーションの流れとグローバリゼーションとは両立するのでしょうか。さらに、自由貿易協定(FTA)へ前進する日本の動きをみてみます。</p>      |                | 配布プリント              |
| <p><b>第8週：第8回 地域貿易協定(1)</b><br/>         WTO(世界貿易機関)における多国間貿易交渉の行きづまりがFTA(自由貿易協定)の急増をもたらしています。FTAは地域貿易協定の一つです。また、環太平洋経済連携協定(TPP)はFTAの一つです。地域貿易協定について説明します。</p>   |                | 配布プリント              |
| <p><b>第9週：第9回 地域貿易協定(2)</b><br/>         地域貿易協定の、貿易創出効果、貿易転換効果、交易条件効果などの経済効果を説明します。地域貿易協定は多国間の自由貿易を促進するのでしょうか。検討します。</p>   |                | 配布プリント              |
| <p><b>第10週：第10回 地域貿易協定(3)</b><br/>         環太平洋経済連携協定(TPP)のメリット、デメリットについて説明します。世界のメガ(巨大)地域貿易協定との関連性を考察します。</p>   |                | 配布プリント              |
| <p><b>第11週：第11回 グローバリゼーションと資本移動・相互依存・マクロ経済政策</b><br/>         経済の相互依存の度合いが強まるなかで、一国のマクロ経済政策の効果が他国に相互に波及する姿を説明します。また、さまざまな形での国際的な政策協調の必要性が強調されています。その必要性と政策協調の限界を説明します。</p>                                     |                | 配布プリント              |
| <p><b>第12週：第12回 グローバリゼーションと通貨制度・為替レート</b><br/>         通貨の発行は主権の重要な一部と考えられてきました。しかし、グローバリゼーションの急速な進展に伴って、この常識も覆りつつあります。「ドル化」や通貨同盟がその象徴です。EUの通貨統合をどのように見たらよいかを説明します。固定為替相場制から変動為替相場制への変遷をみてみます。</p>             |                | 配布プリント              |
| <p><b>第13週：第13回 グローバリゼーションと通貨金融危機</b><br/>         アジアの通貨金融危機をもたらした1つの原因として、ドルとリンクした為替相場制の採用があげられています。米ドルの信用を利用した「トラの威を借るキツネ」的な政策の功罪を検討します。また、通貨金融危機へのIMFの処方箋はどのように評価されるのでしょうか。</p>                            |                | 配布プリント              |
| <p><b>第14週：第14回 グローバリゼーションと中国・アジア(1)</b><br/>         90年代後半にグローバル・エコノミーの主役として浮上したのが中国です。「世界の工場」「世界の市場」としての中国は世界中から直接投資を引き付け、一段と生産力を高めています。反面、日本や他のアジア諸国では、中国へ生産拠点が移動してしまう「空洞化」が深刻になっています。中国経済の発展の原因を探ります。</p> |                | 配布プリント              |
| <p><b>第15週：第15回 グローバリゼーションと中国・アジア(2)</b><br/>         前回に引き続いて、アジア経済の中長期的な成長力をどのように評価すればよいかを検討します。中国への一極集中が進むアジアで競合するASEAN諸国も勃興しています。中国の台頭でアジアの経済地図はどう変わるかをみてみます。</p>  |                | 配布プリント              |
| <p><b>第16週：期末試験</b><br/>         論述形式の試験です。配布プリントと自筆のノート持ち込み可能。電子式辞書持ち込み不可。</p>  |                | 配布プリント<br>自筆ノート、学生証 |
| 授業の運営方法  | (1)授業の形式       | 「講義形式」              |
|  | (2)複数担当の場合の方式  |                     |
|  | (3)アクティブ・ラーニング |                     |
| 備考   |                |                     |

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| <b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b> |  |
| <b>【関心・意欲・態度】</b>           | 1.新聞、TV、ネットなどのニュースをとおして国際経済の出来事に関心をもち、現在の状況を把握しようと資料収集を行なった。 |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <b>【知識・理解】</b>           | 2. 経済のグローバル化がわれわれの生活に及ぼす影響、雇用、賃金、所得分配を理解している。3. 中国・アジア諸国の経済発展を経済のグローバル化の成果として理解できている。 |
| <b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> |   |
| <b>【思考・判断・創造】</b>        |   |

| ○成績評価基準(合計100点)  |                     |                   | 合計欄              | 100点 |
|--|---------------------|-------------------|------------------|------|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点  | 期末試験・中間確認等<br>(テスト) | レポート・作品等<br>(提出物) | 発表・その他<br>(無形成果) |      |
| <b>【関心・意欲・態度】</b><br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。   |                     |                   | 10点              |      |
| <b>【知識・理解】</b><br>※「専門能力<知識の獲得>」を含む。   | 60点                 | 30点               |                  |      |
| <b>【技能・表現・コミュニケーション】</b><br>※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。   |                     |                   |                  |      |
| <b>【思考・判断・創造】</b><br>※「考え抜く力」を含む。  |                     |                   |                  |      |
| <b>(「人間力」について)</b><br>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。 |                     |                   |                  |      |

| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 |   |
|------------------------------------|---|
| 成績評価方法                             | 評価の実施方法と達成水準の目安   |
| レポート・作品等<br>(提出物)                  | 課題を設定してレポートを提出してもらいます。授業の中で指示します。<br>授業確認テストをします。意欲的に集中して授業を聴いていたかを確認する問題を出します。 |
| 発表・その他<br>(無形成果)                   | 授業の中で質問する場合があります。適切な解答をした人には、記録して加点します。   |